

『父の入院』

岐阜県加茂郡八百津町 あらい ゆう

家族を呼び寄せたのは

父の突然の入院。

久しぶりの家族再会。

何年ぶりだろう。

一〇年ぐらいじゃないか。

互いの近況報告の合間に

父の病状の報告。

幸い安定しているので

母を残し私と妹は実家へ。

二人で今後の相談をしつつ

思い出すのは父との思い出。

アルバムを紐解けば

父の笑顔と私たち二人。

もっとアルバム写真を

増やせば良かったのに。

悔やんでも取り戻せない

過去も 人も

人の生命は永遠ではなく

だれしもいずれには天に召される。

知識はあっても

事実として認めたくないのが人間。

高校合格時は「良かったなあ」。

帰省すれば「よう帰ったなあ」。

結婚すれば「おめでどう」。

常にあった父の祝辞が

もう聞けないしれない。

父が眼前から居なくなる。

まさか そんなことは。

居ても経ってもいられず

母に電話し病状を聞く私たち。

「大丈夫。今は静かに眠っている」。

顔を見合わせ 手を握り合い

父の無事を祈る私たち。

その日は明け方まで

父の思い出に華を咲かせ

更けていった 夜は。